

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2013年2月27日号

130号!

NPO法人

「地域で生きる障害者を支える会」

住所: 横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

2年前の3月11日、あの東北大震災が襲ったとき、私たち活動ホームしもだに通う障害者たちは、横浜ラポールシアターの交流会会場にいました。

障害者たちのコーラスやパフォーマンスが終わって、いよいよアトラクション!演奏を楽しんでいる最中でした。

大きな揺れが来て、舞台の下の収納の扉が外れ、座席の前方に並んだ車いすの人たちの頭上に、つりさげられた何列もの照明器具がぶらぶらと激しくゆれます。黒い機具は重さでちょうどブランコをこぐように次第に大きく揺れていつ切れるかとも知れないありさまでした。少し収まるのをまって、ロビーにのがれ...

「新横浜の通りが混み始めていますから、早く!」という声に背中を押されるように、娘を乗せて裏道を走り、家についてみたテレビの画面からは、信じられない光景が飛び込んできました。はじめて目にしたすざましい津波の来襲... やがて原子力発電所の事故へと続く一連の大災害の始まりでした。

私たちは、被災地の皆さんへの連帯を思い、チャリティーコンサートや募金など、できる限りのことをしつつ、一方では、この悲しい出来事からたくさんのことを学び、大切なことに気づかせていただきました。

しかし、この2年間に多くの情報にも触れましたが、もっと“一般的”ではない障害当事者としての声に学び、障害者にかかわる自分たちの備えに生かしていかなければならないのではないかと感じておりました。

横浜肢体不自由児者父母の会連合会が取り組んだ、被災地での医師や支援施設の職員や、会員の皆さんに聞く研修会での報告は、数ページのものでしたが、メディアの前向きな報道とは裏腹に、とてもつらい状況が伝えられています。

そんな中で、日頃から地域になじませてきた人たちは、比較的避難所でもうけいれたとか。福祉避難所があっても、知らなかったり、開設もされなかったところもあったそうで、机上の計画ではなく、心のバリアフリーを含め、物心のきちんとした準備が必要だと呼びかけています。

私たち「支える会」が、行ってきた啓発事業や、交流の集いも、マンネリ化しないよう

に、大切な機会として、生かしてゆかねばと心を引き締められた報告でした。

区社協（社会福祉法人港北区社会福祉協議会）には、障害者セイフティーネットワーク分科会という当事者や支援者による活動の分科会があります。

誰もが安心して安全に暮らせるようにというスローガンのもと、いろいろな活動に取り組んでいますが、防災に関しても、いくつかの取り組みをしています。

まず、住いの近くや、日中活動の地域での防災訓練に参加しやすいように、何か所かにまとまって参加してみる。参加した防災拠点で、障害に対するご理解を広げるための活動をする。自分の住まいの近所での訓練に参加する。という活動をしています。

その時は要支援者は黄色いバンダナをつけ、支援をする人は緑のバンダナを用意します。混雑する防災拠点で支援をよりスムーズに受けるためにという運動です。障害者はコミュニケーションが苦手の人も多いので、困っている様子があれば聞いてあげてください。

また、地域の拠点でも、障害を持った人たちや要援護者のために、何を用意しておく必要があるのか考えるようになってきました。

住まいの近くに、支援の必要な人がいれば、普段から声をかけ自然なお付き合いをしてください。地域での何よりの防災訓練なのではないでしょうか。

号にちなみ何か記念をと思いつつ、ちょっと時間が足りませんでした。

通信も、これだけたまと一種の記録として、いろいろ物語ってくれます。毎号お付き合いくださった皆様にはそろそろお疲れの方もいらっしゃるでしょうが...今年はまだ、私たちを取り巻く福祉の面でもいろいろな展開がありそうで、考えようでは面白い年となってきました！！

ご一緒に見守り、時には積極的にかかわっていただければとおもいます。

横浜以外の地域にお住まいの、会員・賛助会員や支援者のみなさまには、一層身近に感じていただけるよう、ささやかながら日々の活動の様子をお伝えして、福祉の歯車の一端を担っている事を実感していただきたいと思います。

変わらずご指導ご鞭撻くださいますよう....。

### **創刊号では**

さて、「たわわ」の創刊号。当時すでにグループホームの設立に向け試行事業を開始しておりましたが、発刊の挨拶、宿泊練習の経過報告や、職員のコメントなど、たどたどしくも初々しい意気込みがありました。またご入会者の紹介は、顧問会員7名、会員・賛助会員145名、団体会員3団体と報じています（その後ご入会ごとに紹介）。

### **どの様は...**

毎月一回のペースを守り、試行事業の様子、特に支えて下さったボランティアさんの感想などを頂き、メンバーの紹介などを行っています。

6号からは、おなじみめがねの声の連載がはじまりました。

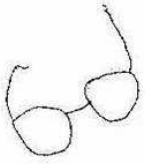
試行事業は、サンヴァリエ日吉の一室を借り、ボランティア会の支援をいただき

<創刊号より>

て行なわれましたが、介助や調理のボランティアをしていただいた方たちの感想文も、心を洗われる気がいたします。以降ほんとにたくさんの人に支えられ、グループホームに住まう人たちの変わらぬ幸せを願い、心と心を結ぶ通信であり続けたいと思ってまいりました。これからも よろしく願いいたします。

**ご寄付** 八重樫洋子様より、ご寄付を頂戴いたしました。心より感謝もうしあげます。ご寄付は、本会計に繰り入れられ、重度障害者の地域生活支援のために大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

## めがねの声



### ■中国の仲間たちと....

8月の終わりに、母と全国肢体不自由児者父母の会の中国交流事業に参加しました。車イスの仲間たち10組と全肢連のスタッフ5人でした。

私は、ぎりぎりまで、迷っていました。障害が重いので風邪がとても怖く、体調が気になります。春からインフルエンザが流行っていたり、母も体調がおかしくなったりで心配が重なっていました。母が祖母に相談したら『いけるときに行きなさい』と励まされたので、でかけることになりました。

\* \* \*

北京の飛行場では、それからずっとお世話をして下さった中国のスタッフのほかに、8人のボランティアさんが待っていてくださって、いろいろなところへ連れて行っていただきました。

北京で、障害者のためのスポーツ施設に見学に行きました。とても広い敷地にいろいろの種目にわかれ、訓練する設備のある練習場の建物がいくつもありました。私たちは、車椅子の走るトラックを走ってみたりしました。たくさんの人(500人ぐらい)が泊まれる設備もありました。代表の人も障害がありました。日本にもあると思いますが、障害者用の施設でこんなに大きなのは聞いたことがありません。別に北京市としても障害者スポーツ施設をもっているそうです。

\* \* \*

障害者の作業所の見学にも行きました。スプーンの袋詰めの仕事や、車椅子の女の子たちは編み物や、きれいな民芸品を作っていました。

皆が歓迎の挨拶をして、手話で歌って下さいました。私は、とても驚きました。全員が一緒に立ってきて揃って挨拶されたからです。日本では、こんな時2~3人ぐらいは、飛んだりはねたり、よそを向いていたりなどするのに、いっせいに行動していたのには、びっくりしました。見学する時間がありませんでしたが、上の階には、身体の訓練の施設があるといいました。

長春で見学したもう一つの施設は、リハビリのほかに、生活の相談や、いろいろな困った日常の出来事の支援もするところです。長春の障害者たちのお話を聞きました。

もう少し時間があれば、重い障害者の様子を見たかったのですが、残念でした。

\* \* \*

母と一緒に、とても楽しい旅ができました。

日本の旅行は、車や列車で、親だけと行ったり出来ますが、飛行機などを使うときは、お手伝い下さる人がないとできませんね。私は、荷物も多いし、会話が難しいし....

中国では、故宮や、万里の長城にも行きました。古いところは、階段や坂や段差が多くありましたが、ボランティアさんたちが気持ちよくお手伝いして下さい、とてもうれしかったです。

大原 友子

## 今月のよつばホーム

### よつばホーム

虫の音の美しい季節となりました。みなさんいかがお過ごしでしょうか。

8月14日は花岡さんの誕生日でした。誕生日当日は夏休みに入ってしまうため、1日早くみんなで誕生日のお祝いしました。

知っている方も多いと思いますが、花岡さんは「わたし8月14日誕生日♪」とよくアピールしています。そのかいあってか、誕生日覚えてくれた方からプレゼントいただきました。アピールすることは大事なことだなと思いました☆

夕食後にみんなから「Happy Birthday dear 佐千江さへん♪」歌ってもらって、とても嬉しそうにろうそくの火を消していました。あるヘルパーさんと息子さんもお祝いに駆けつけてくださって、とてもにぎやかな誕生日のお祝いになりました。本人リクエストのチョコレートケーキをみんなで美味しくいただきました♪



9/17・18よつばグループが旅行に行ってる間、先に2泊3日の旅行に行った次郎さんはグループホームでスタッフと過ごしました。夕食は前々から楽しみにしていたお好み焼き屋さんへ行きました♪

### 第2よつばホーム

朝夕は秋らしい季節になりました。8月は夏ばてもなく、みんな元気にしもだへ行きました。しもだが夏休みの間は、前半はグループホームでゆっくり好きな事をして過ごし、後半は、グループホームも夏休みになり、みんな実家へ。美味しい物を食べたりゆっくり過ごした様です。休み明けには、みんなどんな夏休みを過ごしたか話してくれました。

\* \* \*

9月に入ってからは楽しみがたくさんありました。

まずはしもだの1泊2日旅行です。伊豆へ行って来ました。

前日からみんな楽しみな様子です。「あれもこれも持っていかないと・・・」と準備にも余念がありません。食事時にも「お土産頼むね♪」など旅行の話で盛り上がります。

前日夜は部屋から笑い声も聞こえ、なかなか寝むれない夜になりました。

旅行の当日は天気にも恵まれ、みんなとても楽しかった様です。旅行から帰ってきて早々お土産のお菓子を食べながら、旅行のお話で盛り上がりました。話は尽きず、旅行の興奮そのままにその日を過ごしました。

9月に入ってもう一つ楽しみだったのが連休でした。連休中は天気もよかったので近所を散歩したり、自分達の居室でビデオを見たり、スタッフと話をしたり音楽を聴いたり好きな事をして連休を満喫していました。ピアノ、マリンバ、コーラス、合奏等、知って

る曲が流れると、入居者のみんなも手拍子や歌ったりして楽しんでいました。